



クリスマス 新年

おめでとうございます



## 救いを見つめる

主任司祭 高木 健次

イエス様がお生まれになった夜、その地方で羊の群れの番をしていた羊飼いたちのところに主の天使が現れて、救い主の誕生を告げたと、福音書は伝えていきます。天使は告げます。「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけてあげよう。これがあなたがたへのしるしである。」「見るであろう」と訳されていますが、新約聖書の言葉であるギリシャ語の未来形は、英語などと同様に命令の意味にとることができません。そうすると、天使は羊飼いたちに「あなたがたは布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけてなさい」と命じ、それを受けて羊飼いたちが「主が知らせて下さったその出来事を見ようではないか」と言ってベトレヘムへと向かったということになります。

その誕生の出来事を、見るためでした。想像を働かせれば、赤ちゃんが生まれたばかりで色々大変なマリヤ様たちのお手伝いもしたかもしれません。羊飼いたちの第一の目的は「見る」ことであり、それが天使から告げられた使命であったと言うことができます。静けさの中でただただ幼子を見つめている羊飼いたちの姿が思い浮かびます。見つける、あるいは見届ける、これこそが神様からの恵みに対する人間のとるべき本来の態度なのだ。福音書は言っているような気がします。実際ルカによる福音書の最初の登場人物であるザカリヤは、これから神様がなさろうとすることをとにかく黙って見ていろ、と言わんばかりに一時的に沈黙の状態に置かれました。わたしたちも、羊飼いたちと共に、それぞれの人生の中に、また出会う人々の中に来られる救い主を見出だし、ただただ見つめることができますように。